Kyushu University
Advanced Asian Archaeological Research Center
NEWSLETTER
No. 1
2014. Mar.
九州大学アジア埋蔵文化財研究センター　ニュースレター

アジア埋蔵文化財研究センターの設置と活動

アジア埋蔵文化財研究センター長
比較社会文化研究院　田中 良之

２０１３年４月に九州大学に「アジア埋蔵文化財研究センター」が設置されました。九州大学に存在する学術的な価値のある埋蔵文化財を研究教育資源として活用するとともに、アジアを視野に入れた埋蔵文化財の発掘、調査、分析、活用等に関する文理融合の新たな研究体制を構築し、アジアにおける埋蔵文化財の先導的研究拠点を構築することを目的とするものです。

このセンターは、「文化財調査法開発部門」「精密分析部門」「歴史情報研究部門」の3部門からなり、比較社会文化研究院・人文科学研究院・人間環境学研究院・総合研究博物館の関連分野教員を兼任・協力教員とし、准教授１名、助教１名を専任として発足しています。すでに、国内では九州各地から関東地方、海外では韓国・中国・モンゴル・エルサルバドルの遺跡・埋蔵文化財の調査研究に着手し、最新の精密分析装置を駆使して最先端の学際融合研究を推進しつつあります。

今後は国内外の研究機関とも連携しながら、アジアにおける文理融合の先導的研究拠点を構築していきますので、これからのアジア埋蔵文化財研究センターの活動にご注目いただきたいと思います。

文化財調査法開発部門の紹介

アジア埋蔵文化財研究センター
田尻 義了

文化財調査法開発部門は5つの以下の分野からなります。①高効率・高精度で埋蔵文化財調査を行うための調査法、およびそれに必要な連携・協力体制の開発をおこなう「発掘調査法開発系」、②文化財に関する情報の空間秩序の整理・分析のための地理情報システム解析法開発をおこなう「GIS解析法開発系」、③国内およびアジア各地の墳墓調査法開発、それに必要な連携・協力体制の開発をおこなう「墳墓調査法開発系」、④文化財としての地上建造物および地下構造物の調査法の開発をおこなう「建造物調査法開発系」、⑤出土人骨の精密分析による移動・婚姻など社会動態分析を行う「古人骨分析系」です。これまでの研究実績に対して、新たな連携研究を構築し、さらなる文化財調査方法を挑戦的に開発しています。九州大学の様々な組織に所属する文化財関連分野の研究者が連携することにより、国内だけでなくアジア地域を中心に国際的な連携研究を推進しています。

現在進行中の研究には、

・古人骨歯牙のSr分析を通じた親族組織の研究
・モンゴル青銅器時代の墳墓研究
・群馬県金井東裏遺跡出土人骨調査
・福岡県金比羅山古墳の調査
・大野城市瑞穂遺跡出土人骨の調査
・日田市吹上遺跡、赤迫遺跡、古宮遺跡出土人骨の調査

などがあります。

さらに、身近な課題として九州大学学内埋蔵文化財の保存活用研究も業務の1つとして挙げられます。伊都キャンパスをはじめとする学内の文化財を活用し、地域連携の核となるよう位置づけようと計画中です。
今後の各分野の研究の進展と新たなキャンパスを中心とした文化財の活用に期待してください。

学内埋蔵文化財調査の一例。原町農場遺跡の調査（粕屋町との連携により実施）。古代の大型建物群を検出。

人骨調査の一例。大刀洗町高樋辻遺跡の調査（大刀洗町との共同調査）。弥生時代の甕棺出土人骨を発掘。

精密分析部門の紹介

アジア埋蔵文化財研究センター
足立 達朗

精密分析部門は、地球科学や生物学の手法を考古資料の解析に適用し、従来の考古学的手法で得られるデータと融合させることで、考古学の新たな展開を開拓することを目的としています。本部門は、①文化財の非破壊による高精度精密元素分析・同位体分析を行う「同位体分析系」、②文化財を構成する物質の固体構造を非破壊で分析する「固体構造分析系」、③埋蔵文化財（遺跡・遺物）構成物質の磁気分析による年代測定を行う「考古地磁気分析系」、④遺跡出土昆虫等の動植物遺存体から環境・資源分析を行う「考古生物資料分析系」、⑤安定同位体を用いた古気候/環境変動解析を行う「気候/環境変動解析系」の５分野で構成されます。

現在、本部門には、二重収束型高分解能誘導結合プラズママルチコレクタ質量分析計（MC-ICP-MS）をはじめ、高精度安定同位体比質量分析計、電界放出形電子プローブマイクロアナライザー（FE-EPMA）、波長分散型蛍光X線分析装置（XRF）、顕微レーザーラマン分光装置などが設置され、これら装置群を駆使して考古資料の高精度精密分析を実施しています。現在進行している研究として、

・北部九州に分布する今山系石斧石材（弥生時代）の岩石学的精密分析に基づく原産地推定
・沖縄県南城市、サキタリ洞遺跡（旧石器時代）から出土したカワニナ殻遺物の酸素同位体比分析に基づく古環境の復元と遺跡周辺域における人類活動の解明
・奈良県秋津遺跡から出土した縄文時代のノコギリクワガタ化石の形態解析とそれに基づく現生個体群との比較および遺跡周辺の古気候・自然環境の推定

などがあげられます。

また、非破壊が基本である考古資料から分析試料を確保する精密サンプリング方法などの開発にも取り組んでいます。これにより、精密分析が考古学分野に普及し、学際融合型の研究がさらに発展することを目指しています。

九大筑紫地区遺跡出土の今山系石斧の偏光顕微鏡写真。この石材は、岩石組織、鉱物化学組成、全岩化学組成のすべての項目で今山産の玄武岩と一致する。

歴史情報研究部門の紹介

人文科学研究院
坂上 康俊

歴史情報研究部門は、①北アジアや東南アジアを含むアジア各地の出土文字資料の分析を通じて地域社会の具体相に迫る「アジア出土文字資料解析系」、②考古学の手法を用いて先史・古代東部ユーラシア地域の動向を解析する「アジア先史・古代社会情報解析系」、③文献史学の手法を用い、中国からの視点に立って前近代東アジア世界の歴史像を俯瞰する「前近代中国文献史料解析系」、④日本古代の出土文字資料と文献史料との総合を通じて日本古代の地域社会の具体相に迫る「日本古代文献・出土文字資料解析系」、⑤地名情報や景観などの非文字資料の活用などを通じて日本中世の地域社会の具体相に迫る「日本中世社会情報解析系」、⑥絵図などの画像資料の活用などを通じて日本近世の地域社会の具体相に迫る「日本近世社会情報解析系」、⑦歴史地理情報と文献史料の総合を通じて前近代朝鮮社会の具体相に迫る「前近代朝鮮文献史料解析系」の７分野から構成されます。

現在取り組んでいる研究とその主な成果には、以下があります。

・太宰府市国分松本遺跡出土「嶋評戸口変動記録木簡」の分析に基づく７世紀末日本の籍帳制度の解析
・山西大同出土の北魏文成帝南巡碑の解析および金・清両朝の発祥地であるハルピンと瀋陽の遺跡の解析に基づく中華帝国の構造に関する比較史的研究
・中世朝鮮の陸海交通路を実地踏査した成果として「朝鮮中世燕行路資料集稿」及び「高麗・宋関係朝鮮史料集成稿」を公表
・内モンゴルの元代皇帝巡幸ルート関係の史跡地を踏査し、報告書「東アジアにおけるモンゴル襲来関係地資料集」（共著）を公表

【センター活動報告】

2014年2月20日(木)　アジア埋蔵文化財研究センター　第2回研究会
講演題目１：「昭和４８年大宰府政庁地区出土の「豈有渇飲鴻」木簡について」
講演者：山下洋平（人文科学研究院）
講演題目２：「金井東裏遺跡出土人骨調査について」
講演者：田中良之(比較社会文化研究院)

2013年11月6日(水)　アジア埋蔵文化財研究センター　第1回研究会
講演題目１：「モンゴル国青銅器時代墓の発掘調査とその成果」
講演者：宮本一夫(人文科学研究院)
講演題目２：「エナメル質劣化変性の歯牙Sr同位体比分析結果に及ぼす影響について」
講演者：舟橋京子・田中良之・中野伸彦・小山内康人（比較社会文化研究院）

九州大学アジア埋蔵文化財研究センター
ニュースレター　No. 1

発　行：〒819-0395　福岡市西区元岡744
九州大学アジア埋蔵文化財研究センター
編集：足立 達朗
発行日：2014年3月28日
TEL：092-802-5663/FAX：092-802-5662
E-mail：qa3rc@scs.kyushu-u.ac.jp
ホームページ：http://scs.kyushu-u.ac.jp/qa3rc/

印刷：有限会社櫂歌書房